

朝霞地区医師会 地域包括ケア支援室便り

No.8

令和4年1月号



【年頭の御挨拶】

皆様、また一つ令和の新しい年を迎えましたが、いかがお過ごしでしょうか。

パンデミックの猛威は凄まじいですが、人類だって負けてはいません。検査法、ワクチンや治療薬の開発等で、ここところ重症者は大分減ってきています。軽症自宅療養者が増えると、これを見守る必要があります。行政や医療機関だけでは対応出来ず、今後、訪看や在宅での見守りを得意とする介護のマンパワーが要となってくる事でしょう。

医療従事者が次々に感染若しくは濃厚接触者となれば、医療提供体制が麻痺してしまう事は容易に想像出来るし、実際に世界中で現実化しています。それは介護の世界にも全く同様の事態を生じさせています。自立した生活が出来ないから介護が必要とされているのに、その提供が閉ざされたら... 家族や担当業者が急に介護を請け負えなくなった場合のバックアップ体制を予め構築しておく事は、介護する側に求められる必要な条件、若しくは義務かもしれません。

朝霞地区医師会 地域包括ケア支援室

室長 滝澤 義和



各事業の報告

●朝霞地区在宅医療・介護連携推進会議

朝霞地区の病院と地域を繋ぐ体制づくりを医療・介護・行政で取り組んでいます。

第1回 令和3年6月28日（委員21名中16名出席）

代表（医師：浅井先生）副代表（主任介護支援専門員：岩田さん）の選出を行い、今年度事業の確認、入退院支援ルールの普及啓発について話し合われた。

第2回 令和3年9月13日（委員21名中18名出席） Web開催

委員及び副代表交代（介護支援専門員：本多さん）の承認。新型コロナ第5波の中、在宅要介護者への影響について情報交換を行い、後半は朝霞地区入退院支援ルールの地域定着に向けての対策について話し合われた。

第3回 令和3年11月22日（委員21名中15名出席）

第5回人生の最終段階における医療・介護の研修会報告、朝霞地区入退院支援ルールのモニタリングとしてアンケート調査について、令和4年度朝霞地区在宅医療・介護連携推進事業について話し合われた。

* 12月にアンケート調査を実施し、現在集計作業中です。多くの回答をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

●ACP(アドバンス・ケア・プランニング)普及啓発事業進捗状況

【医療、介護職へのACP研修会】 第5回人生の最終段階における医療と介護の研修会報告

今年度で5回目となる「人生の最終段階における医療・介護の研修会」を令和3年11月9日から11日にかけて実施しました。朝霞地区医師会地域包括ケア支援室、朝霞市長寿はつらつ課、志木市長寿応援課、和光市長寿あんしん課、新座市介護保険課が共同で主催する今回の研修会は、下村幸子監督作品「人生を終うとき」のオンライン上映会でした。

この映画は、埼玉県新座市の堀ノ内病院の医師、看護師、ケアマネジャーが在宅医療に携わる活動の記録であり、高齢化が進み終末期医療の場が病院から在宅にシフトされてきている現在、堀ノ内病院の取り組みは、医療・介護に携わる職員に示唆を与えてくれたように思われます。

参加人数は、5回上映で217名、申込者は、介護支援専門員30%、看護師11%、薬剤師8%、介護職8%、医師4%など他職種が参加されました。

寄せられた感想は、<在宅看取りの実際のかかわりについて学んだ><医療と介護の連携が大切と学んだ>など多数の意見が寄せられました。

【住民に対するACP啓発】 ～ACP普及啓発講師人材バンク登録制度(登録医による出前講座)～

朝霞市(登録医:稲生先生):11月開催 次回2月予定
志木市(登録医:檜原先生):2月・3月予定
新座市(登録医:堀越先生):11月開催 次回1月予定
和光市(登録医:木下先生):1月・2月予定

●朝霞地区訪問看護ステーションのネットワーク

コロナ禍の中、朝霞地区訪問看護ステーションで連携をとり、ステーションの休止を阻止し、地域の住民の皆さまのニーズに対応していきと、開始した「朝霞地区訪問看護ステーションネットワーク作り推進メンバーの会」も12月に第5回を終えました。

11月には、「新型コロナウイルス感染症対応に関するアンケート調査」の実施を行い、ステーションの要望が多かったことから、和光ホームケアクリニック院長木下朋雄先生による「新型コロナウイルス感染症に対応するための研修会」を実施いたしました。

これからも、地区訪問看護ステーションの連携をはかり住民の皆さまのニーズに対応できるよう取り組んでいきたいと思います。



新座市高齢者相談センターにて MCSの運用が開始されました!

令和3年12月1日より、西部高齢者相談センター、西堀・新堀高齢者相談センター、北部第一高齢者相談センターの3地域包括支援センターにおいて、MCSの運用が開始されました。今後も医療介護連携のツールとして、MCSをご活用をお願い致します。

【トピックス】

その1

朝霞地区医師会では、8月に新型コロナ療養支援体制検討委員会が開かれ、その後在宅医の有志が中心となり、朝霞保健所や訪問看護ステーションが加わり、新型コロナ自宅療養者支援に関する意見交換会が月1回開かれています。第5波の学びから第6波に向けて自宅療養者への支援体制等が話し合われています。

その2

支援室ではコーディネーターが南西部保健医療圏(朝霞保健所管区域)難病対策協議会の委員に委嘱されています。協議会では難病在宅人工呼吸器使用児・者の災害対策について安否確認フローチャートの作成等が協議されています。12月に難病相談支援者支援研修会が開催され、「平時から考える難病在宅人工呼吸器使用者等の災害時の備え～患者・家族と医療・福祉・介護・防災・保険分野のネットワーク構築のために～」をテーマに、講演と各所属として当事者からの取組の紹介がありました。介護現場では、ケアライフ朝霞の介護支援専門員の山崎さんから「チームで取り組むALS患者の災害時個別支援計画作成」の発表がありました。介護現場からの力強い発信でした。

この研修から、日々の支援に追われている中でも、災害時(今回のコロナも同様と考えます)の備えに目を向けること(危機管理の視点)が大切と思いました。

